

はくぶつかん 博物館・早田学芸員が教える！

よく分かる 平塚宿



これでバッチリさ

平塚宿は、東海道にあった五十三の宿場の一つです。

東海道とは一六〇一年、徳川家康によって整備された、江戸（今の東京）と京都を結ぶ江戸時代のもっと



はくぶつかん 博物館にある「平塚宿絵図」

も重要な道でした。

道沿いは、旅人や家来を引き連れた大名や荷物を運搬する人などで、いつも大にぎわいでした。多くの人々が京都や江戸まで長い時間をかけて歩くので、たくさん宿屋や休憩所、荷物の中継所などがありました。こうした施設が集まってできた町が東海道沿いには五十三あり、これらの町を宿と言いました。

今の神奈川県にあった宿は九つ。平塚以外では、川崎・神奈川・保土ヶ谷・戸塚・藤沢・大磯・小田原・箱根にありました。

平塚宿は東の藤沢宿から約十四キロメートル、西の大磯宿から約三キロメートルの場所にあつて、今の市民センターから古花水橋の交差点あたりまでにあります。今の平塚駅とはけっこう離れた場所にあつたんですよ。町の大きさは東西に二キロメートル、南北に二・五キロメートルくらいあり、松林に囲まれた自然豊かな場所に、多くの人々が住んでいました。一八六二年の記録によると、平塚宿には全部で二百十軒の家があつたそうです。町には街道沿いに約五十軒の宿屋が並び、酒屋があつたり、そば屋があつたり、ほかにも菓子屋・風呂

屋・床屋・畳屋などいろいろな商売をするお店がずらりと並んでいました。平塚宿って、旅をする人だけでなく、周辺の村人たちも楽しく過ごせる場所だったんでしょうね。

平塚宿があつた場所は今このようになってるよ

